

研究だより

1 第2回 研究授業より学んだこと

（令和4年6月7日（火）6校時 第5学年「資料の整理」 授業者 入江 尚一 教諭）

【協議会より】

①子どもの問いを生かす手立てについて

- ・本時のめあてと予習がつながっている。
- ・挑戦課題がよかった。広南小学校のデータを使うことは自分のこととして考えられる。
- ・「定番のすり傷」など児童のことばを教師がひろって意欲を引き出していた。
- ・児童に一番ぴったりくる発問を考えながら授業を進めていた。
- ・1人学級だと考えが広がりにくいことが多いが、教科書のコメントを上手に活用していた。



②タブレットを活用した個に応じた指導について

- ・視覚支援が素晴らしい。独自のワークシートやプロジェクターを使ってホワイトボードに書かせるなどの工夫がよかった。そのことにより、書くことにとらわれすぎず考える活動ができています。
- ・ホワイトボードに書くと残らないので、写真にとってタブレットに入れておくなど学習の足跡が残るようにしたらよいのでは。



【指導助言】（山田校長先生）

- ・先生と児童の関係がよい。いつも児童を温かく励まして、頑張らせている。
- ・マスのワークシートやプロジェクターを使った視覚支援は毎日授業でしており、児童の実態にあった準備を万全にしている。
- ・挑戦課題は国語科ともつながっており、カリキュラムマネジメントを意識した単元構成になっている。
- ・ホワイトボードは書きやすいが、ノートと手元が行き来する難しさがある。
- ・資料のどこに着目させるか。項目か、合計か、学年か？何に気付かせたいか視点を明確にしてから、表に○をつけさせたらさらによかった。
- ・教科書の資料と広南小学校のデータを比べる活動について、「なぜ低学年のけがが多いのか？」などを想像させてみるのもよい。その考えがメッセージとなり国語科の新聞づくりの活動につながっていく。
- ・児童の実態に合わせ、どこまでICTを活用するのか考えていきたい。
- ・個別の指導が必要な児童が通常学級にもいる。支援の仕方を参考にしてほしい。

2 今後の予定

（令和4年6月24日（金）6校時 第6学年「分数+分数」 授業者 木下 真弥 教諭）